

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000336		
法人名	有限会社 風		
事業所名	有限会社 風 グループホーム たんぼぼ		
所在地	佐賀県佐賀市久保田町大字新田3475ばんの5		
自己評価作成日	令和2年3月11日	評価結果市町村受理日	令和2年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和2年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔な環境と、暖かい陽射しの中で利用者の方々が、自分らしく生活できるよう支援に力を入れている。日中は、殆どの利用者様がリビングで過ごされており、窓からは、洗濯物や季節の花々を眺め、炊事場からの調理の匂いや食器の触れ合う音などを五感で感じ、ごく普通の日常生活を笑ったり、怒ったりと、スタッフを交え生活できる事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路より少し離れ、周囲は広々とした田園風景が広がり、新興住宅と小集落の中間に位置した、南向きの平屋建ての建物である。リビングは南向きの大きな窓があり、明るく風通しもよい。清掃も行き届き、南向きのウッドデッキを備え天気の良い日には日光浴など楽しめる。開設し10年以上となり、地域の一員として住民との関係性も構築され、近所の住民が気軽に立ち寄り、季節の野菜等の差し入れもある。入居者は100歳を超えた方もいる。理念に基づいた職員の行き届いた介護の中で、本人の意向を出来るだけ尊重し、入居者表情も明るく生き生きとしており、穏やかで落ち着いた雰囲気を持つホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由に・気ままに・ふわふわと・・・」の理念に元、利用者様の個々の思いをくみ取り実践するよう心掛けている。	理念は事務所の誰にでも見える所に掲げている。事業所の開所当時より勤務している職員も多く、理念の共有は職員間で概ね出来ている。月々の会議の中でも取り上げ、日々の介護の中で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	創立し14年になり地域の中に溶け込んでいる思いはするが、日常的な交流は出来ていない。	開所して10年を過ぎており、職員も高齢化しているが、自治会に参加し地域の役員等を引き受けており、集落の中に定着している。住民より季節の野菜等の差し入れや立ち寄りも見られ、交流は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で、認知症について話す機会はあがるが、地域の方に発信しているとは言えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を話し、アドバイスをもらえることもある。	地域包括支援センターの職員や地元の区長その他、民生委員、入居者の家族が参加し避難訓練を一緒に行っている。開催時には記録も取り、たんぼぼ通信に記載し家族に送付している。しかし、開催回数が年に2回程度と少ない。	地域密着型の事業所は、運営の透明性やサービスの質の向上性を図るため、2ヶ月に1回の開催が求められている。事業所の更なる発展のため、今後の開催に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方との情報の交換は出来ている。	行政主催の研修会に参加したり、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加している。また、運営に関する相談等を行い、協力関係は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を創設し、適宜勉強会等で話し合い実践している。	事業所では玄関の施錠もなく、身体拘束もない。これまでの経験の下、身体拘束防止委員会を作り、勉強会を催し、外部の研修会にも参加し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を創設し、適宜勉強会等で話し合い実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努めている。必要に応じ繰り返し説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、御家族の要望等を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	入居者は、県内や市内など近郊の方が多く、家族も週2～3回訪問される方もいる。職員との信頼関係も出来ており、面会時、家族や本人の意向の聞き取りに努め、運営に反映させている。最近ではLINEでのやりとりも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、意見交換ができる関係性が出来ている。	ベテランの職員も多く、月1回の会議や朝夕の申し送り時など、活発に意見が出されている。管理者は、聞き取りに努め、出来ることは運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会等の参加を奨励し、努力や実績を評価し賃金に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験豊富な職員が多く、研修会参加は個々の意志に任せている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を通し又、表情・行動を観察することで関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアの目標や方向性を家族と共有し、現状を随時報告することで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用できるサービスを提案し、要望があれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者間同士で助け合い作業等をされている時は、見守り対応することで、利用者間の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの状況を常に連絡し情報を共有することで共に支える意識が出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、関係が途切れない様支援している。	家族や友人・知人の訪問時、職員はくつろげる雰囲気づくりに努めている。また、家族の協力で毎週ドライブに行ったり、事業所でも花見など、全員参加で催し、馴染みの場所に立ち寄るなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に生まれた関係性を壊さない様頭目から支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援は出来ていないが、LINE友になっているケースが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの流れ主体になっている傾向はあるが、希望・意向に添えるよう努める度量は行っている。	日々の関わりの中で意向の聞き取りに努め、意思表示できない入居者には、家族よりの聞き取りや、本人の表情仕草より、意向の把握に努めている。食事の時間など入居者のペースに合わせて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に面談を行い情報の収集に努めている。又日常の会話の中からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状態見守り毛、又職員間の情報の共有で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会で、各居室担当を中心に、意見交換を行い介護計画を作成している。	本人や家族より意向の確認を行い、主治医、訪問看護職員より意見を参考に、話し合いを持っている。モニタリング記録も作成しているが、担当者会議の記録等が整っていない面がある。	担当者会議の記録が整っていないので、今後記録の整備をされることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の評価表を通し、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の希望、相談があれば、他のサービスも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護ステーションとの連携は来ている。	入居時、家族や本人と話し合い、現在は往診利用の方が多く、かかりつけ医の選択は自由となっている。定期的な受診も出来ており、他科受診は家族や職員で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・介護度の変化・状況の変化、適宜話し合いを行っている。	入居時、事業所の対応を説明し、本人や家族の意向に沿った対応に努めている。看取りの経験もあり、入居者の状況に変化があった時は、主治医を交え、その都度話し合いを持ち、家族や関係者全員で支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験豊かな職員多く定期的に訓練は行っていないが、必要時に常勤看護師・訪看よし指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練時には、地域の協力得られるが、体制は築けていない。	夜間想定をした避難訓練は年2回定期的に開催している。地域住民の参加も見られ、災害時の避難先の確認等が出来ている。夜勤職員の訓練や、地域消防団・住民との協力体制の構築が未整備となっている。	夜勤職員の避難訓練、および火災や災害時における地域の消防団や、地域住民との具体的な協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の生活歴・環境を把握し個々に応じた対応を心掛けている。	個人の記録は、プライバシーに気を付け、事務所で保管している。また、排泄の対応等、羞恥心に配慮し、職員全体で、入居者個々の尊厳を守れるよう心掛け、言葉遣いなど気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動等で思いをくみ取るように心掛け働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴等の時間にはある程度決まりを作っているが状況に応じ柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは一緒に出来ていないが、食事を楽しむ雰囲気は出来ている。	食事時間はゆっくりと取り、音楽を流し、穏やかな雰囲気作りに努めている。季節の行事では、特別食等も提供し、毎月家族からの定期的な差し入れも見られる。また、入居者の能力に応じて、後片付けなどの手伝いもお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。必要時は訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている。	職員は入居者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心掛けている。リハビリパンツから布パンツ使用になった方もあり、自立支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りがちである。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に添っているとは言えない。	週3回、午前・午後、言葉掛けを行い、本人の意向を尊重した入浴支援を行っている。現在、入浴拒否の入居者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて支援出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認(情報の共有)にて服薬の支援出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を送る中で自然な形でやくわり・楽しみ事は出来ているようだ。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば支援していきたい。	入居者も重度化して、外出の機会は少ないが、ウッドデッキで外気浴を楽しんでいる。また、入居者全員で花見やドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば支援していくが、現在対象者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援していくが、現在対象者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの南側の窓から陽射し・季節を感じる事が出来る。匂いがこもらないよう気をつけられている。	ホームは、落ち着いた中にも清掃が行き届き、臭いもなく明るく、室内の換気に気を付けている。壁には、手作りの小物が飾られており、居間には、入居者の希望でソファが置かれ、日中を過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファを設置し自由に使われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み自由なので、御家族の協力で出来ている。	居室は、家具等の持ち込みが自由で、家族の写真や孫の手作りの絵などが飾られている。入り口には、居室を迷わないように、名前札も工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整備し、危険なく生活できるよう支援している		